

## ◇◇寄居町九月議会報告◇◇

寄居町9月議会は、9月16日～10月7日の22日間開催されました。令和3年度寄居町一般会計決算は、10億9千万円の黒字。監査報告では、財務状況は良好と評価しています。新型コロナウイルス感染症拡大による諸事業の中止と、国からの地方創生臨時交付金によるものです。町は「健康長寿のまち県下ナンバー1」目標に対し、令和2年、63市町村中、男性48位、女性55位、要介護認定率は、女性が7位ですが、男性は21位。高齢者のさらなる健康づくりに、黒字をいかした施策を追加する必要があります。国保会計は、1億4千万黒字です。黒字を生かし、一般会計からの法定外繰り入れの継続と均等割を18歳までを廃止すべきです。その他、教員の長時間労働解消、非正規職員数の削減など、黒字を生かす町政の課題はあります。検討すべきではないでしょうか。

### ■主な決算等に対する日本共産党議員団の賛否

#### ◇令和3年度一般会計歳入歳出決算の認定

##### 【反対しました】

収支は10億9029万円の黒字です。生活への安心・安全と将来に不安のない保証が確保されていません。生活が優先される決算にすべきです。



- ・高齢者へ支援を行うべきです。
- ・第1次産業を施策で支えるべき。
- ・子育て支援をさらに拡充させ、安心な子育てと就労支援を。
- ・愛のりタクシーは運行拡充が不十分です。
- ・住宅改修資金補助制度は予算の増加と補助金増額を。

#### ◇令和3年度水道事業利益の処分及び決算の認定

##### 【反対しました】

少子高齢化で使用量20立方以下が増加、基本を10立方で使用水量への料金改定を。

#### ◇令和4年度寄居町一般会計補正予算

##### 【反対しました】

黒字を物価高騰で苦しむ年間所得200万円以下の町民への生活支援に回すべき。

◇「インボイス制度の実施中止を求める意見書」提出を求める請願

##### 【賛成しました】

インボイスは、消費税免税業者を納税業者にするもので、数多くの国が新型コロナ経済対策に消費税減税を行っているなか逆行するもの。採決で否決されました。

### ●公設浄化事業槽特別会計決算と下水道事業会計利益の処分及び決算

##### 【賛成しました】



## 田母神節子議員 一般質問要旨 ◇

### 一、町職員の労働環境確保と非正規雇用改善を

近年風水害、感染症などの異常事態が続いています。

【問】当町において時間外労働の実態はどうなっていますか。

- ①最高時間数と最低時間数
- ②各課の平均時間外を伺います。
- ③人員体制は現状のままよいと考えますか。

- ④非正規雇用を半減させること、特に公立保育所保育士の正規雇用34人に対し非正規雇用41人であることへの見解。
- ⑤非正規雇用職員の継続雇用ルール作りの見解。
- ⑥自治体労働者が生き生きと仕事ができる施策について。

##### 【回答】

①令和三年の一人当たり平均は月8・4時間です。最も多かった職員は月平均で34・3時間、少なかつた職員はゼロ時間です。

②総務課で、月22・6時間、次いで中心市街地活性化推進室で月17・7時間、最も少なかったのが議会事務局で月2・3時間です。

③基準上、正規職員は270人まで可能です。昨年度、計画人数を250人への削減から、見直して260人に増やしました。多様化した行政ニーズやワークライフバランスへの対応を考慮したものです。

④人口の減少傾向が続く中で、定員数の増加は避けなければならず、町の規模に見合った行財政運営も必要で、正規職員増員の考えはありません。

⑤地方公務員法で「採用は、競争試験又は選考により、任用期間は一会計年度を超えない範囲」と定められ、町はこれを遵守しています。任用の回数制限は無いことから、継続雇用ルールを別途作る考えはありません。

⑥ノー残業デーや子育てハンドブックの配布、メンタルヘルス研修、ハラスメント防止規定の整備など取り組んできました。今年度に勤怠管理システムを導入し、時間外勤務の適正管理や各種申請の職員負担を軽減します。

### 二、ジェンダー平等・多様性尊重の社会を目指して

新型コロナウイルスの感染拡大はジェンダー不平等の日本社会を浮き彫りにしました。

##### 【問】

①労働者のうち非正規労働者の割合、及び女性の割合を把握していますか。

②中小企業での男女賃金格差について伺います。

③町職員の女性幹部登用はどう考えていますか。

④パートナースhip制度※は、全国225自治体、埼玉県で36市区町が導入しています。導入の考えはありますか。

⑤ケア労働者の賃金引き上げについて、町としてどのような対策がありますか。

⑥性暴力被害者のための病院拠点型ワンストップセンター設置の考えはありますか。

##### 【回答】

①町では把握していませんが、埼玉県が公表している数値では、男女平均の正社員の割合が62・7%、非正規労働者の割合が37・3%です。女性に限れば非正規労働者の割合は55・1%です。

②埼玉県の小規模事業者の常用労働者男女間の賃金格差は、女性の平均給与が、男性の55・8%に留まっていると公表されています。

③主幹級以上の女性管理職割合は現在20%で、当面の町目標は達成していますが、国や第6次総合振興計画目標の30%は達成していません。任用の根本基準である能力主義を阻害しないよう留意し、キャリアデザインの形成や能力開発で、適材適所の職員配置を行います。

④直ちに制度導入する考えは無いが、性的マイノリティの方への正しい理解ができる教育や啓発を進めていきます。県施策、他市町村の動向も踏まえて検討します。

⑤ケア労働者の処遇改善は、国の主導で進められているものと認識しています。町では国が進める支援事業などの周



知に努めています。

⑥町での設置については考えておりません。埼玉県では、性暴力等被害者専用相談電話「アイリスホットライン」を設けており、24時間、365日相談を受けられます。町は「アイリスホットライン」の周知を行います。



大澤 博 議員 一般質問要旨 ◆◆

### 一、教職員の長時間勤務改善を

教職員の長時間労働は依然深刻で、デジタル化対応などで業務が増えた上、非正規教職員が増えた為、正規教職員へ業務の偏りが起きています。正規職員増員が必要です。

【問】町内小中学校の教職員の正規教職員、非正規教職員の人数と比率、教職員の残業時間は小中学校別でどの位か、授業への準備時間にどれだけ掛けられているか伺います。

【回答】

正規教職員は165人で92.7%、非正規教職員は13人で7.3%です。残業時間は、令和4年6月の実績で、小学校で平均2時間9分、中学校で平均2時間11分です。授業のない時間や放課後を教材研究に充てており、会議を必要最小限とし、一週間の授業計画を工夫しています。

【問】デジタル化対応業務の困難な教職員への対処、及び授業中に操作が分からない場合の対処、スキルアップについて伺います。

【回答】

研修の実施やICT支援員による指導を行なっています。授業中のトラブルは、デジタル機器に頼らない授業展開に切り替えるか、ICT支援員ヘルプデスクを活用します。スキルアップはICT支援員による研修及び、「ICT活用事例集」を各校へ周知し指導をしています。

【問】子どもの健全な成長には、教職員が健全な状態であることが肝要です。教職員の勤務・健康について調査したことはありますか。

【回答】

全教職員を対象に「ストレスチェック」を実施しています。心療内科医を委託医に専属契約し、必要に応じて受診できる体制づくりを整えています。また、定期健康診断を確実に実施し、職員の健康状態把握に努めています。

【問】教職員の長時間労働を無くすため、どのようなことを行っていますか。

【回答】

学校行事等を精選し、「ノー残業デー」を設定、会議の時間・回数を最小限にして、教員業務支援員を活用しています。平日の夜間や休日の電話対応の負担を軽減するため、電話対応を平日は午後6時30分までとし、休日は無しとするものです。緊急の連絡は、管理職へ転送されます。

### 二、学校給食費を無償化に

新型コロナウイルス感染拡大と非正規雇用の増加、子育て世代の貧困化、働く母親の増加、一人親家庭の増加などで、家で食事を作る機会が減っています。学校給食の持つ「食育」が、重要になっています。

【問】小中学校給食費の滞納者はいますか。

【回答】

学校給食費の滞納者はいますが、ほとんどの給食費は、数か月以内に納入されています。

【問】第2子から学校給食費無償化する費用、完全学校給食費無償化する費用はいくらですか。

【回答】

令和4年度生徒数での試算では、第3子以降の無償化費用は、約1000万円、第2子からの無償化費用は約500万円、給食費の完全無償化費用は約9500万円です。

【問】理想の子ども数より少ない理由に「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が66%。少子化対策には、経済的支援の充実がカギです。学校給食費無償化をどのように考えていますか。

【回答】

第3子以降の給食費は無償化しており、一定の要件を満たした、経済的支援を必要とする家庭には、学校給食費全額のほか、学用品、修学旅行費、オンライン学習通信費などを給付する就学援助制度を活用していただきたいと思います。

### 敬老祝いがさびしいね・・・

敬老祝い対象のお年寄りに町から届いたお祝い。今年はメッセージ1枚のみ。一生懸命家族や社会に尽くしてきたつもりなのに・・・町の声です。町長さん、来年は宜しく願いします。

## 日本共産党寄居町委員会が 来春の寄居町議会選挙予定候補者を発表!

日本共産党寄居町委員会は、来年の寄居町議会議員選挙の予定候補者として、現職の大沢ひろし氏、新人の浅見れい子氏を擁立することを発表しました。皆様のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。



大澤 博

1953年寄居町男衾生まれ。児玉農高(現・児玉白楊高校)卒業、コンピューター専門学校卒業後、ザール機器入社。農業を営む。ゆずの木保育園理事。寄居町議会議員2期(現在総務経済委員)。JAふかや男衾農産物直売所生産部会副会長を歴任。日本共産党寄居町副委員長、埼玉北部地区委員。住所:寄居町富田822 家族:妻、息子3人。◆趣味:アマチュア無線、キャンプ。活動地域:男衾小校区、桜沢小校区、用土小校区。



浅見れい子

1958年生まれ、埼玉大学卒業。教員として坂戸ろう学校、東松山特別支援学校等で通算32年間働く。ゆずの木保育園理事、2020年10月～2022年3月寄居町まちづくり計画策定町民会議委員。日本共産党川南後援会事務局長、寄居町委員、埼玉北部地区委員。住所:寄居町鉢形1268-9 家族:夫・娘・息子2人。◆趣味:読書、刑事ドラマの観賞、三線、旅行。活動地域:鉢形小校区、折原小校区、寄居小校区。

◆エンジニアで農民の大澤さん  
◆福祉・教育が専門の浅見さん  
“ベストチーム”で町民の  
願いを実現します